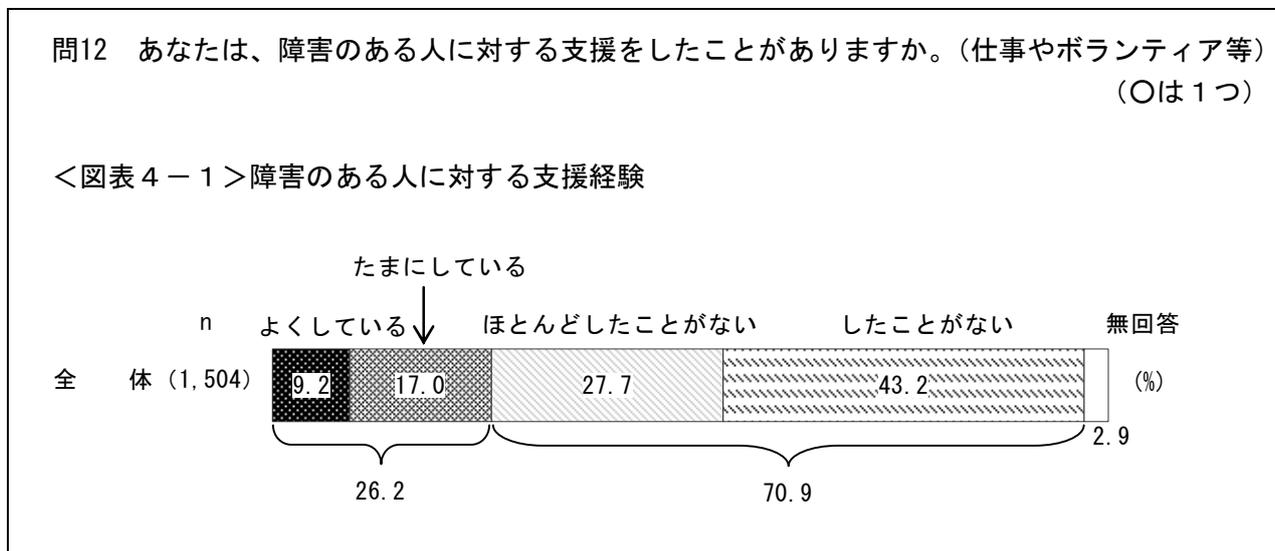


4 障害者施策について

(1) 障害のある人に対する支援経験

◇『したことがない』が7割



障害のある人に支援をしたことがあるかを聞いたところ、「したことがない」(43.2%)が4割台半ば、「ほとんどしたことがない」(27.7%)を合わせた『したことがない』(70.9%)は7割となっている。

一方、「よくしている」(9.2%)、「たまにしている」(17.0%)を合わせた『している』(26.2%)は2割台半ばとなっている。(図表4-1)

【地域別】

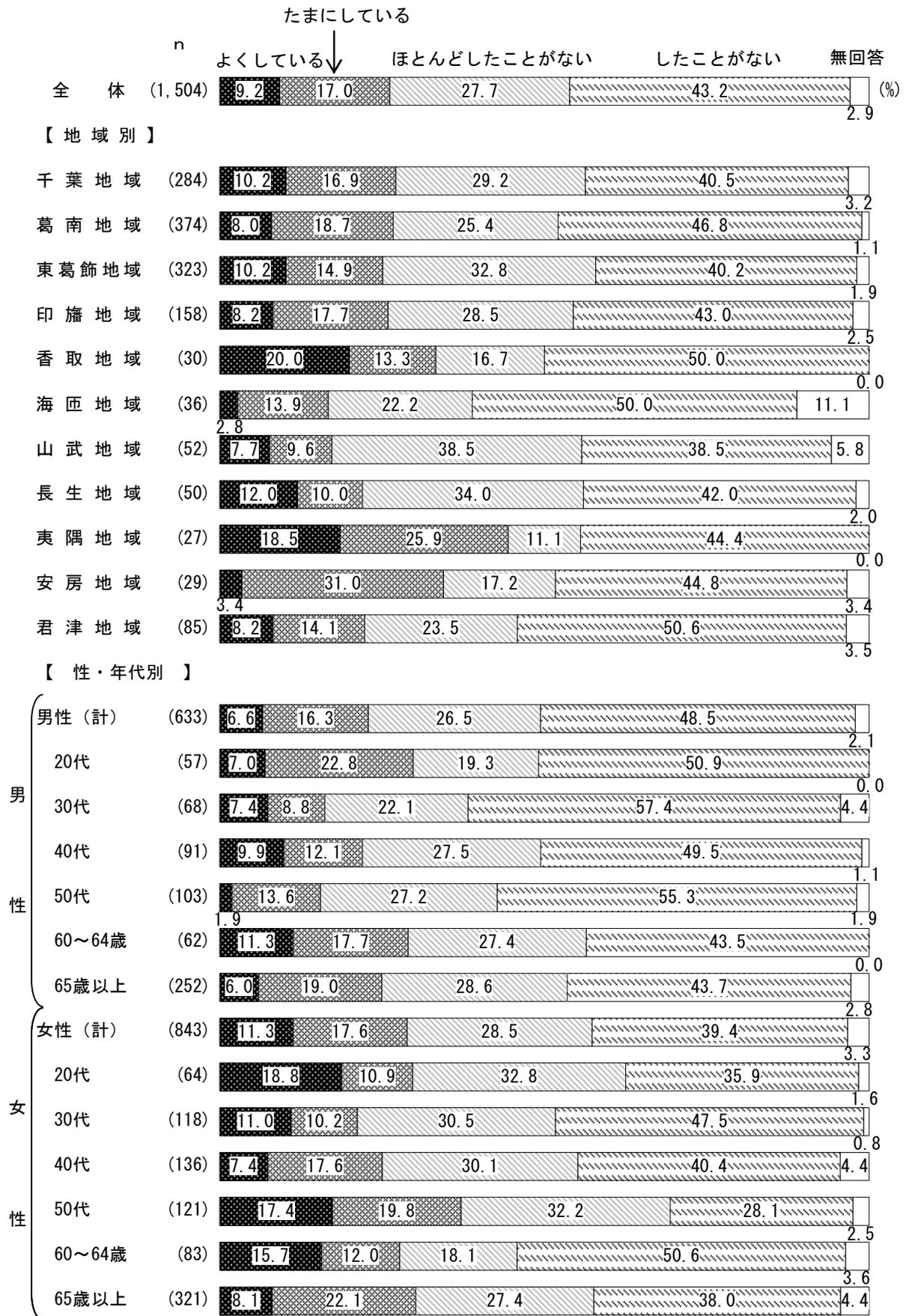
地域別にみると、『している』は“夷隅地域”(44.4%)で4割台半ば、「よくしている」は“香取地域”(20.0%)で2割と他の地域に比べて高くなっている。(図表4-2)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『している』は女性の50代(37.2%)で約4割と高く、「よくしている」は女性の20代(18.8%)、女性の50代(17.4%)で約2割、女性の60~64歳(15.7%)で1割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。

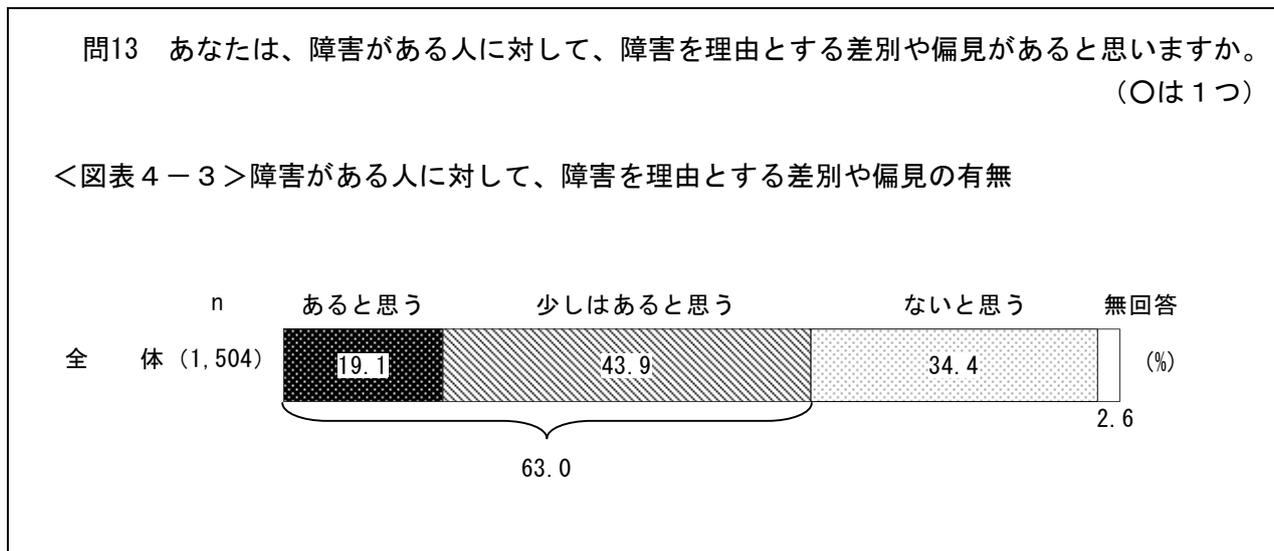
一方、『したことがない』は男性の50代(82.5%)で8割を超えて、他の年代に比べて高くなっている。(図表4-2)

<図表4-2>障害のある人に対する支援経験/地域別、性・年代別



(2) 障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無

◇『あると思う』が6割台半ば



障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思うか聞いたところ、「あると思う」(19.1%)が約2割、「少しはあると思う」(43.9%)を合わせた『あると思う』(63.0%)は6割台半ばとなっている。(図表4-3)

【地域別】

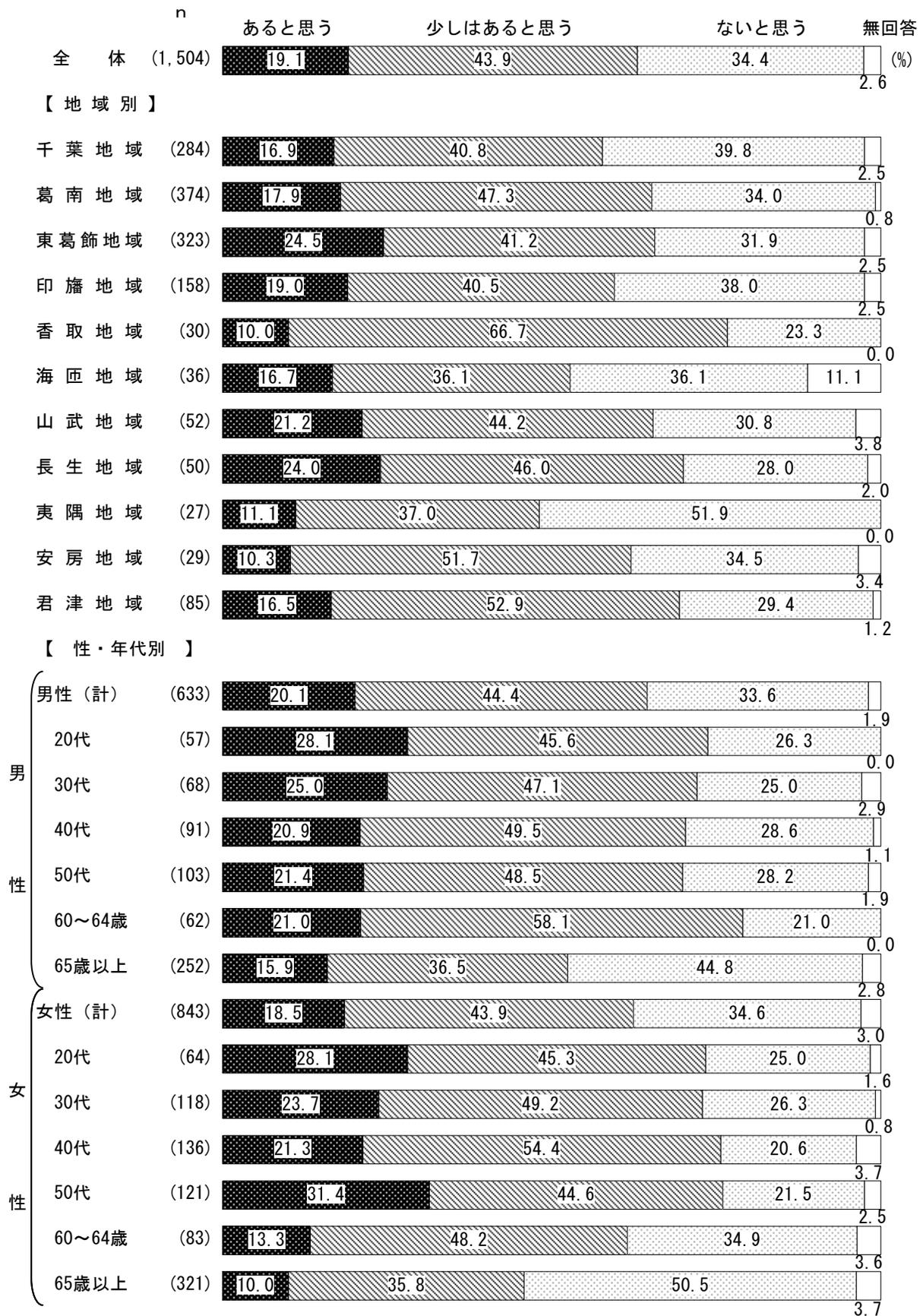
地域別にみると「あると思う」は、“東葛飾地域”(24.5%)、“長生地域”(24.0%)で2割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。(図表4-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『あると思う』は男性の60～64歳(79.0%)で約8割、女性の50代(76.0%)、女性の40代(75.7%)で7割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。

一方、「ないと思う」は女性の65歳以上(50.5%)で5割、男性の65歳以上(44.8%)で4割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。(図表4-4)

<図表4-4>障害がある人に対して、障害を理由とする差別や偏見の有無／地域別、性・年代別

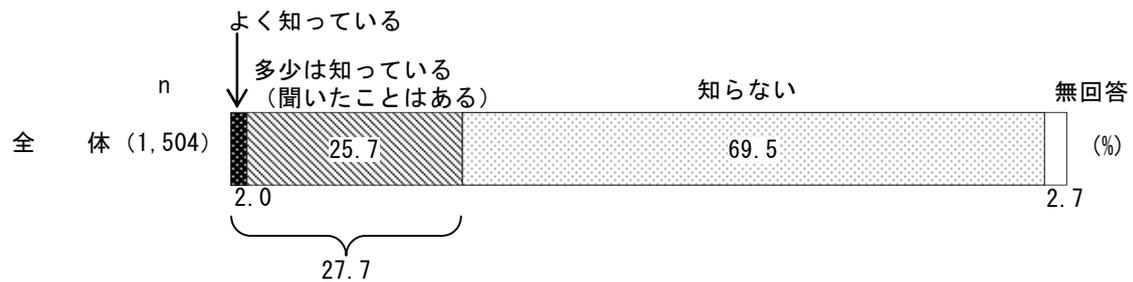


(3) 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況

◇「知らない」が約7割

問14 あなたは、障害のある人に対する差別をなくすための「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っていますか。(○は1つ)

<図表4-5> 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況



障害のある人に対する差別をなくすための「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」を知っているか聞いたところ、「知らない」(69.5%)が約7割となっている。

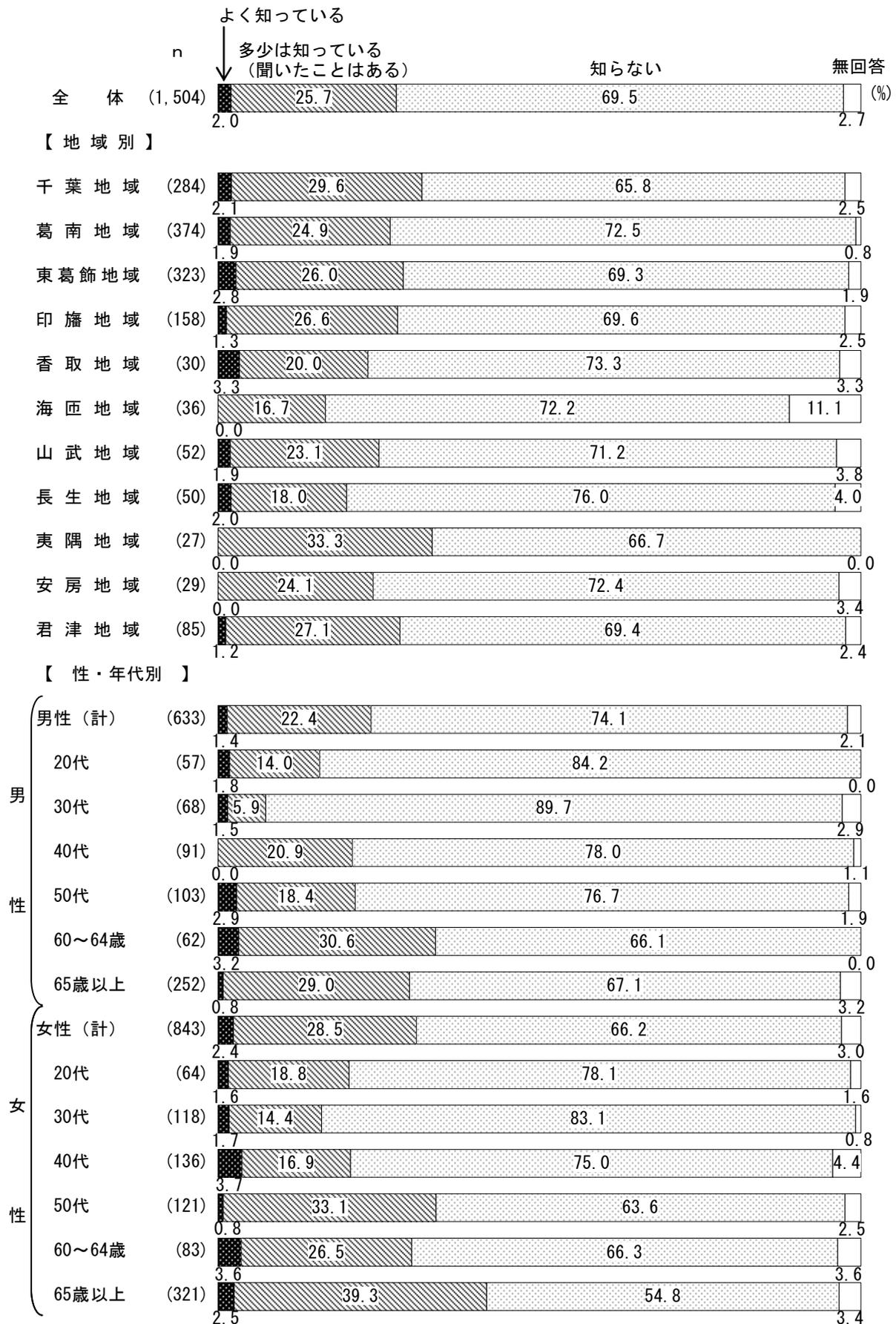
一方、「よく知っている」(2.0%)、「多少は知っている」(25.7%)を合わせた『知っている』(27.7%)は約3割となっている。(図表4-5)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている』は女性の65歳以上(41.7%)で4割を超え、他の年代に比べて高くなっている。

一方、「知らない」は男性の30代(89.7%)で約9割、男性の20代(84.2%)、女性の30代(83.1%)で8割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。(図表4-6)

<図表4-6> 「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」認知状況／地域別、性・年代別

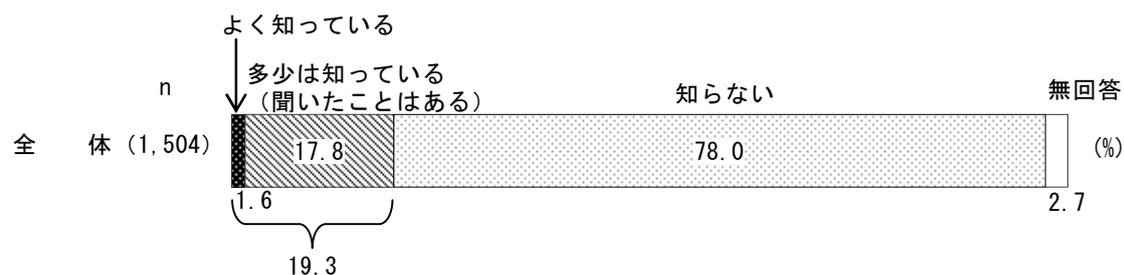


(4) 「障害者差別解消法」認知状況

◇「知らない」が約8割

問15 あなたは平成28年4月から施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)を知っていますか。(○は1つ)

<図表4-7> 「障害者差別解消法」認知状況



平成28年4月から施行される「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)を知っているか聞いたところ、「知らない」(78.0%)が約8割となっている。

一方、「よく知っている」(1.6%)、「多少は知っている」(17.8%)を合わせた『知っている』(19.3%)は約2割となっている。(図表4-7)

【地域別】

地域別にみると、『知っている』は、“夷隅地域”(37.0%)で約4割と他の地域に比べて高くなっている。

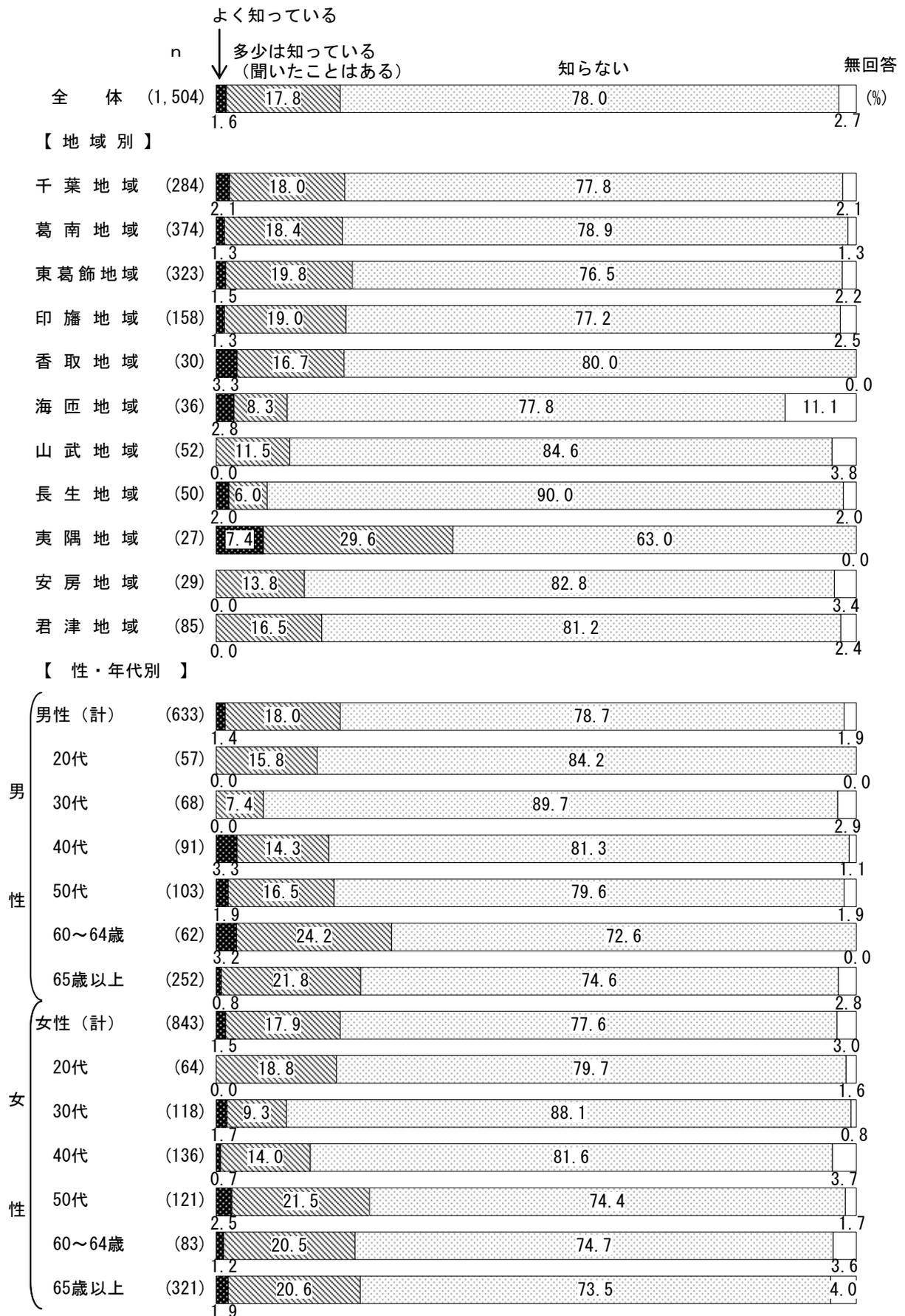
一方、「知らない」は“長生地域”(90.0%)で9割と他の地域に比べて高くなっている。

(図表4-8)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知らない」は男性の30代(89.7%)、女性の30代(88.1%)で約9割と他の年代に比べて高くなっている。(図表4-8)

<図表4-8> 「障害者差別解消法」認知状況／地域別、性・年代別



このほかに、「障害者施策について」やここまでの質問（問12～問15）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、193人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■ 「障害者施策について」の自由回答（抜粋）

- 障害者の活躍している状況や環境を整備する事で、可能性を増やす施策などを公表し、認識してもらおう方法を検討する。（男性、40代、君津地域）

- 障害者認定の有無に関係無く県、市で取り組んでほしいです。外観で他人に認めてもらえる人と内面上の人とではむずかしいけれど、車の表示マークの小さい物でもいいので持参してもらえる様にしてもらおうと助かります。（女性、50代、東葛飾地域）

- バリアフリーや視覚支援は最低やらなければいけないことだと思う。誰でもわかるよう、ユニバーサルデザインを色々な所にとり入れるべき。健常者でも分かりづらいことが多い。標識など。（男性、20代、葛南地域）

- 障害を持っていても社会復帰したいと思う人は多いのに、元の職場へ戻るための支援が不足していると思う。元の職場でなくても、働ける場所が少ないと思う。企業などにも理解を促進してほしい。大企業だけでなく、中小企業にも。（女性、30代、海匝地域）

- 子供達にも障害のある方々への接し方を経験によって育てられるような環境を作ってあげて欲しい。（女性、60～64歳、夷隅地域）

- 障害者になりえることが誰にでもあることをもっともっと認知すべきことであると思います。突然自分になってしまっってはじめて解ることがあります。身近な所に早い時期にそういうこと知ることが大切だと考えます。（男性、50代、山武地域）